

2023年度 愛知のふるさと食品コンテスト出品申請書

1. 出品者のプロフィール

部 門	1 新技術開発部門 ② 新製品開発部門 3 県産農林水産品利用部門 (出品部門の番号に○印をつけてください)		
ふ り が な	とくていひえいりかつどうほうじんしみんれんいちのみや		
申請者名 (企業名又は団体名)	特定非営利活動法人志民連いちのみや		
所 在 地	〒 491-0859 愛知県一宮市本町4丁目12番7号		
電 話 番 号	090-6898-8818	F A X 番号	0586-27-4838
代 表 者 名	星野 博	電子メール	38@38ya.org
ふ り が な	ふくおか ますみ	コンクール担当者 部署名・役職名	com-café三八屋マネージャー
コンクール担当者名	福岡 潤美		

2. 出品商品の概要

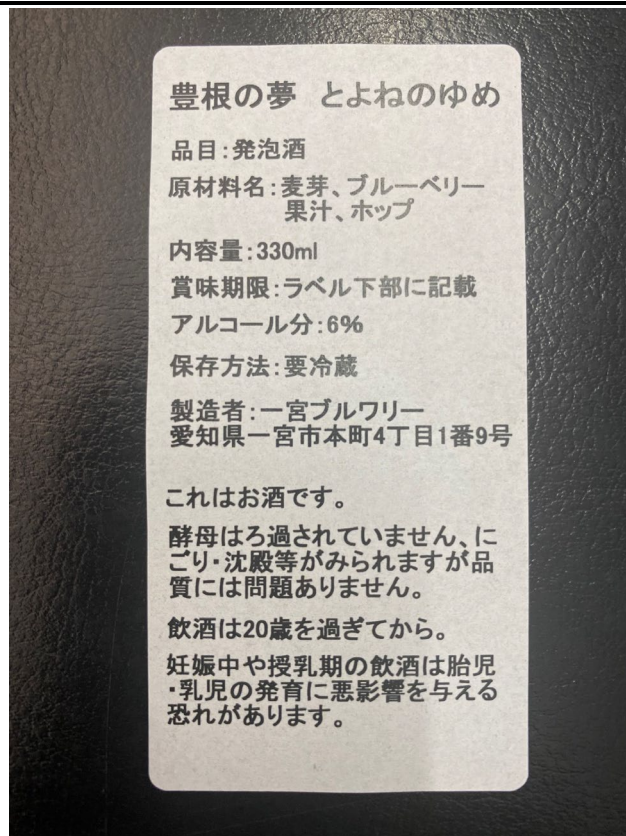
商 品 名	豊根の夢 (とよねのゆめ)		<出品商品の写真> 		
価格 (税込み) / 単位	¥ 1040	／ 本			
容量・重量 / 単位	330ml	／ 瓶			
生産開始時期	西暦2022年10月14日				
最近1年間の出品商品の売上高	西暦2022年11月26日 ~ 西暦2023年6月20日	175 千円			
保 存 方 法	常温・冷蔵・冷凍		(該当項目を○で囲んでください)		
原 材 料	主要原料名	麦芽	ブルーベリー ジュース		
	生産地名	ドイツ	愛知県		
	使用割合 (%)	51	48		
	使用量 (kg/年間)	64.26	60		
販 売 先	主な販売先	自店舗			
	割合 (%)	100			
出品商品の 特徴 (簡条書き等で簡潔に 記載のこと)	(出品商品の説明と特徴について、200字程度で記入してください) ● 豊根村の特産品であるブルーベリー、その中でもあさがね農園の完全無農薬のブルーベリーを贅沢に使用 ● 愛知県の東端の豊根村の農園と、県西端の一宮市のブルーリーのコラボレーションを、専門研究会がコーディネートして誕生 ● 出荷不能ロスを減らし、手作りの循環を可能にするSDGsゴールに沿った展開 ● ラベルデザインは手作のクラフト風で、この商品の持つストーリーが伝わるよう生産者を表現				

(添付書類等) 出品商品を説明するパンフレットがあれば添付願います。

2023年度 愛知のふるさと食品コンテスト出品申請書

3. 出品商品の食品表示

(食品表示の写真又はラベルを添付してください)



P R 資 料

※審査員が参考とする資料です。
各項目の記入事項を確認の上、
御記入ください。

申請者名	特定非営利活動法人志民連いちのみや
商品名	豊根の夢（とよねのゆめ）

項 目	P R し た い 点
技術又は製品の 新規性 記入事項 ・技術又は製品にどのような新規性があるか。従来の技術又は製品とどのように異なるかなど ・農林水産業の生産等への貢献など ・特許等の出願、大学等の研究機関との協力の有無など	【新技術開発部門】又は【新製品開発部門】への出品者のみ記入 愛知県豊根村産ブルーベリー果汁48%使用しています（1回の標準生産量90L）。一般的なフルーツフレーバービールとは一線を画す、本格的な味わいのビールとして「豊根の夢」を作り出しました。 豊根村特産の完全無農薬で丁寧に作られたブルーベリーであり、近年の農業従事者の高齢化や人手不足で収穫できず市場に出せないブルーベリーを使用しています。県内の食品関連企業が集まり未利用資源の活用を考える包装食品技術協会の研究会との商品開発で誕生した商品です。
県産原料の利用度 記入事項 ・使用している県産原料名やその割合及び利用方法など ・原材料の調達等の面で地域の発展・活性化への貢献など	【県産農林水産品利用部門】への出品者のみ記入
独 創 性 記入事項 ・他の商品との差別化した点や工夫した点など	単なるフルーツフレーバーの発泡酒ではなく、本格的なビールとして麦芽の比率を51%と高くし、ほぼ同量のブルーベリー果汁を贅沢に使ったビールです。 ホップは香りが控えめな品種を取って採用し、ブルーベリーの香りをうまく引き出すことに成功しました。酒税法上の分類としては発泡酒となりますが、長期熟成されるビールであるパーレーワインに使われる酵母を選び、アルコール度数6%強を実現し、一宮ブルワリーのクラフトビールの味わいを損なわない作りとなりました。 一宮ブルワリーの醸造責任者山田文隆が20年以上の醸造経験から配合、醸造法を考え、このビールを設計しています。
郷土色の豊かさ 記入事項 ・地域特性を活用した点 ・製品化による雇用促進の面で、地域に効果のあった点など	ビールに使用したブルーベリーは愛知県豊根村産の完全無農薬品です。 あさがね農園にて丹精込めて育てられています。近年は農業従事者の高齢化や人手不足により完熟期に収穫が間に合わず出荷できなくなるブルーベリーが発生していました。 The（地）オリジナル（クラフト・てづくり）を活動理念の一つに掲げ、一宮市に軸足を置いて様々な活動をするまちづくりNPO法人志民連いちのみや。その一部門である一宮ブルワリーとのコラボレーションとして、このビールは生まれました。
包装・デザイン 記入事項 ・取扱いの便利さ、食べやすさ、環境への対応、わかりやすい表示等、工夫した点など	手間暇かけて作られた無農薬ブルーベリーの自然なイメージをクラフト風に表現しました。 あさがね農園の生産者をイメージしたイラストや語りかけるような表記で、消費者に対して愛知県豊根村ならではの特産品を使った商品であることをアピールしています。
ネーミング 記入事項 ・名称の由来やねらいなど ・消費者の購買意欲を高める工夫など	美しい里山で育つブルーベリー。心を込めて送り出す生産者が見る夢。それを託され、地産のブルーベリーの風味や香りを活かし、なおかつ本格的なビールとしてたくさんの人に美味しいと喜んでもらうことを願った、一宮ブルワリーの醸造者の見る夢を、この名前に込めて「豊根の夢」としました。
広告宣伝・販路開拓 記入事項 ・広告宣伝の内容など ・販路開拓のための取組など	ブログや各種SNS（Instagram、facebook等）にて発信しています。 新聞（中日新聞尾張版・東三河版）にも取り上げられました。 店舗では、ワイングラスに入れて提供し、ワインのような美しい紫色と、グラスに広がるフレーバーを楽しんでいただくようにしています。 販売は好調で、通常の製品と比べても販売力は高いと感じており、今後の販路開拓、拡大への足掛かりとなっています。
価格 記入事項 ・価格を設定する上での戦略など ・商品販売後の売上げ状況（販売量・販売額）など	原価が高く、一般的なビール製品に比べますと高価格帯となっているものの、この商品の持つストーリーや類似製品の市場価格を鑑み、通常より低い価格設定としています。 「豊根の夢」は、一宮ブルワリー隣接のパブでも他ビールより高額で提供していますが、十分な価格競争力を持っており、販売力は高いと感じています。

2023年度 愛知のふるさと食品コンテスト 補足資料

豊根の夢 特定非営利活動法人志民連いちのみや

資料1 一宮ブルワリー隣接パブにて提供した「豊根の夢」画像



資料2 タップから注ぎたての、作り立て「豊根の夢」画像



豊根村のブルーベリーを使ったクラフトビール「豊根の夢」＝一宮市本町4のcom-cafe三八屋で



一宮ブルワリー

尾張版



母と子
伊藤明美
主体美術中部

ニュース、情報は下記へ
社 会 部
052-231-1650・5919
Eメール
shakai@chunichi.co.jp

一宮 総局 〒491-0851
一宮市大江1-13-13
0586-72-4545 Fax72-5035

津島通信部 0567-28-2157 Fax28-2158

稲沢通信部 0587-32-8800 Fax23-8035

江南通信部 0587-54-4001 Fax54-9622

蟹江通信部 0567-95-3022 Fax95-3000

春日井支局 0568-81-2036 Fax81-2797

犬山通信部 0568-61-2612 Fax61-2613

小牧通信部 0568-72-1177 Fax72-6530

中日新聞へのご意見は
読者センターへ
052-221-0800 Fax221-0819
Eメール

center@chunichi.co.jp

掲載写真を購入希望の方は
最寄りの中日新聞販売店へ

供養のかけこみ寺
葬儀 供養 樹木葬
縁切り供養
大法寺
気軽に話ししましょう
0567-28-7319
愛西市稲葉町江頭10番地
樹木葬 大法寺 検索

ブルーベリー×ビール＝特産品

一宮市本町の醸造所「一宮ブルワリー」が、豊根村特産のブルーベリーを使ったクラフトビール「豊根の夢」を開発した。ワインのようなフルーティな味わいが特徴で、一杯六百元で三月下旬に発売する。ブルーベリーの販路を広げ、地域の新たな特産品に育てたい考えだ。

(下條大樹)

販売所設置へ資金募る

豊根村の果実 ふんだんに活用



豊根村で生産されているブルーベリー。同村提供

豊根村は長野、静岡両県に接し、村の九割が森林に覆われ、標高は一四八〇〜四一五メートル。昭和六十年ごろから新しい特産品を作ろうと、涼しい気候を生かしてブルーベリー生産を始めた。現在は村内に約二十の農園があり、年間で県内最大級の約三トンを出荷している。大粒で甘みが強く、生食に適しているのが特徴。ただ、近年は農業従事者の高齢化や人手不足で完熟期

に収穫しきれず落下してしまい、出荷できないブルーベリーが発生している。そこで、県内の食品関連企業でつくり、未利用資源の活用に取り組み包装食品技術協会(名古屋)の食品創造研究会が、豊根村のブルーベリーの活用を広げようと、二〇一九年から商品開発に着手。酒との相性が良いことが分かり、クラフトビールを手がける一宮ブルワリーに相談した。

今回は豊根村の「あさがね農園」が生食向けとして販売しない品質のブルーベリーを提供した。一宮ブルワリーの責任者、山田文隆さん(左)は、過去にイチゴを使ったビールを作った経験などを生かし、ビール百円を作るのにブルーベリー果汁と麦芽をそれぞれ二十キを使用。昨秋に一宮ブルワリー隣のカフェ&パブ

「com-cafe三八屋」で試験販売すると、リピーターが生まれるほど人気商品となった。山田さんは「ブルーベリーをふんだんに使った、うちにはできないビールができた」と自負。あさがね農園を運営する長谷川歩さん(右)は「村は過疎化が進んでおり、豊根に注目してもらえなきゃいけない」と期待する。

食品創造研究会の代表幹事を務める木葉裕章さん(左)は「大風が吹いて、ブルーベリーが大量に落ちてしまうこともある。いろんな売り方を確立させ、食品廃棄を少しでも減らせた」と話す。将来的には農業従事者の高齢化で収穫できないブルーベリーの活用にもつなげたい考えだ。

一宮ブルワリーはクラフトビールのテイクアウトに対応できるよう改装し、販売所を設ける資金百二十八万円をクラウドファンディングサイトで「キャンプファイヤー」で三月八日まで募っている。返礼品はオリジナルステッカー(千三百八十円)やビール三種飲み比べ(一万円)など。ウェブサイトで「一宮ブルワリーTOGOプロジェクト」と検索。

一宮ブルワリーはクラフトビールのテイクアウトに対応できるよう改装し、販売所を設ける資金百二十八万円をクラウドファンディングサイトで「キャンプファイヤー」で三月八日まで募っている。返礼品はオリジナルステッカー(千三百八十円)やビール三種飲み比べ(一万円)など。ウェブサイトで「一宮ブルワリーTOGOプロジェクト」と検索。

東三河版



おねだり
加藤愛佳

旺玄会愛知支部

ニュース、情報は下記へ
 社会部
 052-231-1650/5919
 Eメール
 shakai@chunichi.co.jp

豊橋総局 千440-0806
 豊橋市八町通4-52-1
 0532-52-7181 Fax54-4655

岡崎支局
 0564-22-1661 Fax25-1554

豊田支局
 0565-31-3200 Fax31-3203

豊川通信局
 0533-86-2305 Fax82-1575

新城通信局
 0536-22-0242 Fax23-3811

蒲郡通信局
 0533-68-2437 Fax66-1465

設楽通信部
 0536-62-0269 Fax62-1577

田原通信部
 0531-22-0269 Fax23-2889

中日新聞へのご意見は
 読者センターへ
 052-221-0800 Fax221-0819
 Eメール
 center@chunichi.co.jp

広告のお申し込みは
 広告局三河アドセンターへ
 岡崎 0564-23-3051(代)

掲載写真を購入希望の方は
 最寄りの中日新聞販売店へ

家族葬 喪宅

家族葬ホール豊安 豊橋
 ☎0532-45-0900

家族葬ホール豊安 上六名
 ☎0564-51-7222

村特産

豊根村特産のブルーベリーを使ったクラフトビール「豊根の夢」が開発された。ワインのようなブルーベリーな味わいが特徴で、一杯六百円で三月下旬に発売する。ブルーベリーの販路を広げ、地域の新たな特産品に育てたいと考えた。(下條大樹)

豊根村は長野、静岡両県に接し、村の九割が森林に覆われ、標高は一四八―一四一五㍎。昭和六十年ごろから新しい特産品を作ろうと、涼しい気候を生かしてブルーベリー生産を始めた。

現在は村内に約二千の農園があり、年間で県内最大級の約三トを出荷している。大粒で甘みが強く、生食に適しているのが特徴。ただ、近年は農業従事者の高齢化や人手不足で完熟期に収穫しきれず落下してしまい、出荷できないブルーベリーが発生している。

そこで、県内の食品関連企業でつくり、未利用資源の活用に取り組み包装食品技術協会(名古屋市の食品創造研究会)が、豊根村のブルーベリーの活用を広げようと、二〇一九年から商品開発に着手。酒との相性が良いことが分かり、クラフトビールを手がける「宮ブルワリー」に



- ①豊根村で生産されているブルーベリーを村提供
- ②特産のブルーベリーを使ったクラフトビール「豊根の夢」＝宮市本町4のcom-cafe三八屋で

クラフトビール「豊根の夢」誕生

救われる一杯



一宮の醸造所 収穫しきれず落ちる実に販路

相談した。

今回は豊根村の「あさかね農園」が生食向けとしては販売しにくい品質のブルーベリーを提供した。一宮ブルワリーの責任者、山田文隆さん(宝)は、過去にイチゴを使ったビールを造った経験などを生かし、ビール百ccを造るのにブルーベリー果汁と麦芽をそれぞれ二十ccを使用

昨年秋に一宮ブルワリー隣のカフェ&パブ「com-cafe三八屋」で試験販売すると、リピーターが生まれるほど人気商品となった。山田さんは「ブルーベリーをふんだんに使った、うちにしかならないビールができた」と自信を語った。山田さんは「村は過疎化が進んでおり、豊根に注目してもらえるきっかけとなったら」と期待する。

食品創造研究会の代表幹事を務める木葉裕章さん(宝)は「大風が吹いて、ブルーベリーが大量に落ちてしまつこともある。いろんな売り方を確立させ、食品廃棄を少しでも減らせた」と話す。将来的には農業従事者の高齢化で収穫できないブルーベリーの活用にもつなげたい考えだ。

提出書類の記入方法

1 出品申請書（様式1）

（1）部門

3部門の中から、自社商品が最も強みを発揮すると考えられる部門に○印を記入ください（一つのみ）。

なお、審査項目は部門にあった内容となります。

また、この部門は、全国コンテストの「優良ふるさと食品中央コンクール」の部門に準拠しています。

新技術開発部門	製造・加工に関する新技術の開発もしくは実用化を行ったもの。
新製品開発部門	新製品の開発を行い製造・加工を行ったもの。
県産農林水産品利用部門	製造・加工を通じて、農産物、畜産物、水産物や林産物の原料調達等で地域の発展・活性化に功績のあったもの。

（2）主要原料

原材料のうち、県産原料及びその他原料について、主要なものを使用量の多い順に記載してください。

（3）主な販売先

主な販売先とその販売割合の多い順に記載してください。

（販売先記入例）スーパー、直売所、自店舗など

2 PR資料（様式2）

審査員が参考とする資料です。左欄の項目ごとに採点しますので、記入事項を確認の上、アピールをお願いします。

3 その他補足資料

審査の参考となるパンフレット等があれば、3部送付ください。

なお、試食品の送付日等については、別途連絡します。

4 書類の送付について

応募はメール又は郵送で受け付けます。

提出書類：出品申請書（様式1）、PR資料（様式2）及び補足資料

（郵送）〒460-8501

名古屋市中区三の丸3-1-2

愛知県農業水産局農政部食育消費流通課 需要拡大・ブランド力強化グループあて

（メール）shokuiku@pref.aichi.lg.jp